

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第 20 回 (平成 26 年度第 3 回) 高齢者福祉等専門分科会				
事務局 (担当課)		高齢政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 5 4 (直通)				
開催日時		平成 2 6 年 9 月 8 日 (月) 午後 2 時 0 0 分 ~ 午後 2 時 5 0 分				
開催場所		相模原市役所 会議室棟 1 階 第 1 会議室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	-				
	事務局	1 2 人 (高齢政策課長他 1 1 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 第 6 期相模原市高齢者保健福祉計画 (素案) について (2) その他 3 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 第 6 期相模原市高齢者保健福祉計画 (素案) について

計画の達成状況の点検・評価及び第 1 号被保険者の介護保険料について説明をする前に、第 6 期相模原市高齢者保健福祉計画 (素案) について、前回の専門分科会に引き続き意見を伺った。

質疑、意見なし。

第 6 期相模原市高齢者保健福祉計画 (素案) における計画の達成状況の点検・評価について、事務局より説明を行った。

在宅医療について質問である。往診をする医師が、どこにどれぐらいいるのかということ、どのように知らせているのか。

在宅で介護を受けている者の容態が急変した際に、往診をする医師と入院先の医療機関との連携がとても大事だが、どのように考えているのか。

往診をしている医師は、往診として登録している医師と、訪問診療として登録している医師がいる。登録している医師については、市医師会のホームページ等に一覧表が掲載されている。

急変等の連絡・相談については、各区高齢者相談課や高齢者支援センターに相談があった場合、対応した職員が状況を把握した上で、往診・訪問診療をしている医師を紹介していくという対応を行っている。

連携については、かかりつけ医から、直接医療機関につなげることが一番スムーズであり、訪問している看護師から医師に連絡をして、その医師から医療機関に連絡していただくという形が理想である。しかし、それができているところと、できていないところがある。現状としては、その状況を詳しく把握できていない。

追加だが、今回の介護保険制度の改正で、在宅医療・介護連携推進事業が大きく取り上げられており、その中に地域の医療・介護サービス資源の把握がある。本計画 (素案) の 87 ページでも、医療・介護サービス資源の把握及び活用を記載しており、こうした基本的な取組を進めていきたいと考えている。

平成 26 年 8 月時点で、往診をしている診療所が 47 か所、訪問診療をしている診療所が 60 か所、合計 107 か所ある。

高齢者支援センターの認知度について、平成 25 年の現状値が 32.2% であり、認知度がかなり鈍いような気がする。平成 26 年度においてどのように進めていくのか。

高齢者支援センターの認知度については、第 5 期に目標として挙げており、高齢

者等実態調査が3年に1回であることから、認知度が上がっているのか心配していたが、現在の調査結果をみると、思っていたよりもかなり認知度は上がっているという評価をしている。認知度が低いのではないかと御指摘だと思うが、第4期、第5期をみている中では、認知度が上がってきているという評価をしている。第6期計画に記載する目標値については、どこまで上げるか今後検討していく。

全国的な傾向でもあるが、平成23年度8月の厚生労働省調べによると全国平均で3割弱である。他の公的機関、例えば、ハローワークが同時期だと74%くらい、年金事務所は78%くらいである。国の介護保険担当課長会議等において、あらゆる機会を使って地域包括支援センターの認知度を上げていく必要があるとお話もある。法律用語は浸透してきているが認知度が30%に至っていないということで、愛称を募集し、高齢者支援センターという名前を平成26年4月1日から使い認知を広めていく取組を行っている。認知度についてはほぼ全国平均であるが、愛称を使ってこれからも広めていくため、第6期計画に記載する目標値の設定については、現在検討中である。

私の地域は高齢者支援センターをいろいろな会議などに取り込んで、意見交換をしている。そうすることによって、縦割りではなくて横の連携を行い、風通しのいい支援をお互いにしようということで進めている。

認知度32.2%は市の平均であり、26か所のうち、一番高い日常生活圏域である相武台地区では50%近い。高齢者支援センターの認知度が高いため、まちづくりセンターの建て替えの時に、地域をあげて高齢者支援センターをまちづくりセンターの建物の中に入れて欲しいという要望をいただいている。認知度は地域によってかなり幅があり、20%台の日常生活圏域から46~47%の日常生活圏域までである。その点については高齢者支援センターの会議、職員の研修等を通じて、周知を強化していこうと思っているが、第6期計画に記載する目標値の設定についてはもう少し相談させてほしい。

第1号被保険者の介護保険料の考え方について、事務局より説明を行った。

質疑、意見なし。

(2) その他
なし

4 閉会

以上

社会福祉審議会第20回（平成26年度第3回）

高齢者福祉等専門分科会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	出欠席
1	石黒 雄彦	相模原市老人クラブ連合会	出席
2	石塚 天章	相模原人権擁護委員協議会	出席
3	片岡 加代子	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
4	小磯 英次	相模原市私立保育園園長会	出席
5	小松 幹一郎	相模原市医師会	欠席
6	杉本 稔	日本大学教授	出席
7	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	出席
8	中野 紀夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	出席
9	西本 敬	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会	欠席
10	原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
11	水戸 隆	相模原市自治会連合会	出席
12	吉田 幸弘	相模原市歯科医師会	出席

（敬称略、50音順）

は専門分科会長